

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792620015		
法人名	株式会社コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム柳の杜		
所在地	福島県河沼郡柳津町大字郷戸字川口原丙1106番地22		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成28年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所し2年目になる。恵まれた自然環境の中で広々と開放的な事業所。季節折々を楽しんでいただけるよう毎月の行事にも力を入れています。利用者一人一人がその人らしく生活できるように思いに寄り添いながら、それぞれが役割を持ち、出来る能力を維持していけるようなケアに取り組んでいます。地域の一員として地区の行事にも参加し繋がりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町で唯一のグループホームとして町との連携協力は密であり、介護認定更新の時など行政面で相談し易く色々な意見も頂いている。回覧版による情報交換もあり近くの方に手作りケーキを作って来ていただいたりと、利用者との交流を図りながら近隣住民との関係を構築している。隣接町の高校には福祉科があり、事業所と学校との協力関係を築きながら、生徒の介護体験ボランティアを受け入れ、利用者には孫のような生徒との楽しい時間を過ごしてもらえるよう、サービス向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を職員全員で考えた。事業所内に掲示し周知を図っている。地域の一員として、地域とのかかわりが途絶えないよう取り組んでいる。	理念を掲示するほか全員が名札の後ろに理念を書いて入れておき、いつでも確認して認識するようにしている。全体会等で理念を作った時の初心に立ち返って周知、共有することに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区会費を払い回覧を回してもらい地区の行事、町の行事の案内をいただき参加するようにしている。	地域の一員として地域の年間行事である斎の神や新年会に参加している。近所の方より軽トラックで野菜類の差し入れも頂いたり、事業所に認知症の講演を依頼されたり、地域の方との交流を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の依頼を受け老人クラブ向けに認知症についての講習会を開催した。また認知症キャラバンメイト取得によりサポーターを養成する担い手としても地域に貢献したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場福祉班長、包括支援センター所長、地区区長、児童民生委員、家族代表に連絡し出席をいただいている。それぞれの立場から貴重な意見・助言を頂きサービスの向上に努めている。	利用者や家族、職員の目印として、道路上の事業所案内の看板表示を付ける事や、冬期間利用しないテラスの除雪などの助言をうけて、サービス向上に取り組んでいる。秋祭りのボランティアや、スポーツ民謡の訪問などの参加をいただきサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に現況を報告している。運営推進委員としても来ていただいております。必要に応じて、相談し回答を得ている。	町との情報交換は日頃より取れていて、協力関係が構築されている。特に9月の水道の断水時には、備蓄の水を使いきってしまうという事態に、特別に給水車の手配をいただき利用者のサービスに実践されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本に全職員間で理解、確認しあっている。各ユニット入口も自由に行き来できるようにしている。玄関の施錠は夜勤者一人になる20時過ぎに行っている。	社会福祉協議会や法人での身体拘束をしないケアの研修に参加して、毎月の勉強会で内容の共通理解と実践につとめている。熊などの出没もあるので、利用者が事業所から出てしまった場合を想定して、害獣フェンスは必要な場所には設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いかなる状況や場面においても虐待は犯罪であることを繰り返し伝え周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人制度を活用されていた利用者様がおり職員会議の中で説明した。また、外部研修に参加し事業所内で勉強会を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分時間を取り重要事項の説明を心掛けている。質問には可能な限り丁寧に返答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時に近況報告し、その際に自由に意見や要望などを伺う機会を作るよう努めている。運営推進会議でも家族に発言の場を設け運営に反映されるよう努めている。	家族代表者以外に利用者もメンバーに入り、運営に意見や要望を出してもらっている。話しの中で出された収穫祭や芋煮会、流しそうめんを実施して利用者、家族、職員とも和やかな雰囲気の中で、共に良好な関係作りに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議、全体会議において意見交換を行っている。提案は受け入れ十分検討したうえで可能な限り繁栄させている。	ユニット毎に出来る事を確認しあい編み物や工作品を町の文化祭に出品するなど、職員意見で運営に反映させている。業務の改善についても、申し送り簿を全職員が目をとおしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給、年2回の賞与制度を実施。人事考課制度を導入しており、自己目標に対しての自己評価を行い向上心を持てるよう心掛け、モチベーション維持を保てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修への参加を積極的に行っている。また、グループ会社全体の研修会や資格取得のために勤務調整を行い出来る限り支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで同業者との交流を図り、情報収集や情報交換を行っている。グループホーム協議会に加入し他事業所との情報交換も行え質の高いサービス提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時及びケアプラン策定時のアセスメントにおいて本人、家族の意向を伺っている。また、不安を理解し安心してサービスを利用していただけよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みに来られた際に、申し込みに至った経緯なども伺い、事業所内を見学していただきながらサービスなどの説明をさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いをしっかり受け止め実態調査を実施し、支援方法を職員会議で話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に掃除や食事づくりや片付けを行うことで助け合っている。また、菜園の野菜や花の育ちを一緒に確認したり収穫を行った。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にお便りや電話連絡を行い本人の状態や健康面を報告している。また、受診や入院手続き等を家族にお願いし共に本人を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のほとんどの方が家族の面会だが年に2回ほど近所の人、友人の訪問があった。家族の協力で馴染みの美容室に出かける方もいる。	柳津の虚空蔵尊は、利用者の人気場所でもありドライブ時にはおみやげのあわまんじゅうも定番になっている。元教師の利用者が旧職場に顔をだして、思い出が鮮明によりみがえり元気になったりと馴染みの場所への関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性について職員が把握し共有している。それぞれの関係性を考慮し食事の席など配慮している。毎日、お茶の時間や食事の時間は職員も混ざり談笑している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様のご家族の訪問やご相談をいただいた時もある。地域的に関わりが密接なため退所後もお付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から利用者様の思いや要望など聞くよう取り組んでいる。ご家族様から情報を得る時もある。本人の思いに添えるよう努めている。	利用者の言葉にしづらい思いなど、日頃の行動や表情などから、本人の真意のくみ取りを大事に考えている。ドライブに出かけたりした後の帰宅時の言葉や買い物に出かけた場合でも、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族様から話を伺い生活歴の把握に努めている。フェイスシート、アセスメントシートをケース記録に綴り作成者と介護職員が経過や情報を共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の連携で心身の状態の変化等素早く対応できるよう努め、朝・夕の申し送りで情報を伝え援助に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が月に1度モニタリングを行いその際、利用者担当の介護職員と意見交換しプランに反映している。	利用者や家族に要望や変化が生じた場合などを考慮しながら、申し送り簿や担当者の意見も反映して定期的に介護計画を立てている。変化のある場合は、その都度利用者や家族、職員とも話し合いのうえ介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に情報を共有するようにしている。気づいたことをケアマネ、看護師、担当介護職で検討しケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情や本人の希望により、職員が通院介助や買い物を柔軟に行っている。一人一人の要望に応え満足が得られるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーに買い物へ行ったり、近隣の道の駅におやつを食べに出かけたりして地域での生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、本人やご家族希望のかかりつけ医の確認をしている。状態の落ち着いた方であれば同意を得て地域の医療機関での受診を行っている。家族の都合に合わせて町内外の受診対応を柔軟に行っている。	利用者にとって馴染みのかかりつけ医に継続的に医療を受けられるように、町の診療所だけでなく喜多方や若松の病院も希望により受診支援をしている。家族や職員の同行受診では、利用者の情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックの実施。食事量や排泄状況、入浴時に全身状態、皮膚の状態を把握し看護師へ報告・情報を共有し看護処置や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員と連携し退院の見込み、及び事業所の対応可能な段階で早期退院が出来るよう調整し家族に同意を得ている。退院時の情報を医師、看護師、職員で共有し介護にあたっている。また、こまめに面会をし本人との関わりを大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応と看取り指針について説明し承諾を得ている。緊急時の対応や搬送先についても説明している。看護師を中心に内部研修や外部研修に参加し、終末期の対応について職員が安心して取り組めるように努めている。	家族と利用者の希望に添えるよう看護師を交えた医療連携に、チームとして取り組んでいる。利用者の状況の変化に応じて、事業所として利用者と家族の同意書を交わして終末期に向けた対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時は看護職員に報告し対応している。看護職員不在時は電話で指示をもらい対応している。応急処置の訓練は今後、年間消防計画に含めて身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施している。年2回消防署の協力を経て総合訓練を行い助言を頂いている。年1回地域ぐるみの訓練も計画している。	地区の消防団には協力の構築を呼びかけている。今回の断水で備蓄のミネラルウォーターはなくなったが、再度、備蓄の確保に努めている。避難訓練は夜間想定や通報訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりプライバシーに配慮し、その方に合った言葉かけやかかわり方を心掛けている。利用者の羞恥心にかかわることは居室にて対応している。	基本的にさん付けで読んでいるが、職員を自分の孫年代と認識している場合には状況に応じて対応している。 口調が強くなりがちな職員もいるので、大声で話さない事や利用者に寄り添った声掛けなど、言葉掛けに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な選択肢から決定できるように働きかけ、意思を表出出来るような場の提供にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースに合わせ必ずお声掛けをして了解を得ている。各場面において本人の希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は本人の希望を聞きながら行っている。足りない衣類がある時はご家族に依頼したり、一緒に買い物へ出かける支援も行っている。女性利用者様にはお化粧を楽しんでもらったりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には場所を変え外で、流しそうめんや焼肉をするなどして食事を楽しんでもらえるようにしている。利用者個々の能力に合わせ、食事形態を工夫し提供している。食事前には必ず口腔体操を行い食欲が高まるよう取り組んでいる。利用者の力を活かし出来る範囲で準備や片付けを一緒に行っている。	利用者に元旅館の女将さんもいるので、作業効率の良くする方法や料理などを教えていただきながら、利用者の楽しい食事時間になるよう努めている。誕生会や季節の食事も一か月ごとにメニューを作成して、料理を楽しみのひとつとして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、同法人の栄養士から指導、助言をもらっている。食事摂取量をチェックを行い状態観察を行っている。食欲のないときはその人の食べれるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清掃をし清潔保持を行っている。夜間は個々に預かり、消毒・除菌をして翌朝装着していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、利用者様の行動や排泄パターンを把握し羞恥心に配慮しながら誘導することによりトイレでの排泄がスムーズに出来るよう支援している。	パットなども、メーカーの新製品の価格と機能を勉強しながら選択して、本人の自立に向けた対応をしている。誘導に対してもプライバシーに配慮して排泄パターンを把握しながら、トイレへのさりげない声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を行い、排便のない日数を把握している。便秘がちな利用者様についてはかかりつけ医に報告し指示をもらっている。食事に食物繊維や乳製品を取り入れ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせて個別に入浴している。ADLに応じて個浴と機械浴を使い分け安心・安全に入浴していただいている。帰宅願望のある方に入浴を勧めることで場面転換や気分転換を図るなどの工夫もしている。	利用者の希望で午後に入浴をしたい人が多いが、利用者がお風呂に入りたいという思いがあった時や、体調などの状態によっては予定日以外でも利用いただいている。菖蒲湯や入浴剤等も、気分転換で楽しんでもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の習慣に合わせて午睡や休息の時間を設けているが日中はなるべく活動量を多くし、夜間の安眠へ繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は看護師が管理し、服薬にあたっては介護職員が飲み込みまで確認を行い徹底している。また、服薬前に職員同士日付、名前等確認し間違えないよう与薬している。日々の状態を確認しながら主治医と相談し、薬の調整の支援もを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の清掃や食器拭き、畑を利用し野菜作りや収穫、調理など行っていただいている。ご本人の出来ること役割を模索し、また生活歴等を考慮し検討している。家族の協力を得て外泊・外出することで気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別や複数での散歩、ドライブ外出、外出など支援している。家族と外出に出かける際の支援もしている。体調を把握し安心・安全に外出できるよう心掛けている。	季節に応じた花見やドライブ、スーパーが遠いために買い物も同行するなど、日頃から利用者が出かけられるように積極的に外出している。利用者の中には、薬の準備などを配慮しながら試験外泊を繰り返して、在宅に戻られた事例がある。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人希望、及びお金がないと不安になる利用者には家族の同意、理解を得て所持してもらっている。ほとんどの方は管理が難しく家族の同意上事務所保管・管理をさせていただき、買い物時はご自分で支払いが出来るよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人が家族への電話を希望したら直接会話ができるよう支援している。電話や手紙が困難な利用者には職員が代行し連絡を取っている。家族との関係性が途絶えないよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースには利用者の作品を掲示している。また、ソファを配置し利用者同士交流できるよう配慮している。また、掘こたつがあり自由にくつろげ、家族との面会や昼寝もできる共用空間となっている。</p>	<p>共有空間は、高い天井とゆったりとくつろげるソファが置かれ、のびのびした雰囲気で落ち着ける空間になっている。小上がりの畳の間には、利用者が集まれる掘りごたつがあり、利用者職員で文化祭の作品の制作も行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の関係性を考慮し席順をきめている。居間のソファの配置を工夫し仲の良い利用者同士が会話できるよう配慮している。また、和室スペースも活用し支援している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>使い慣れたもの、馴染みのものを持ちこんでいただいてご自分の部屋と同じくするように居室作りをしてもらっている。個々に合った居室作りをし安心して暮らせる環境作りを努めている。</p>	<p>使い慣れた個人の家具を持ち込み、自分らしく居心地よく利用されている。利用者の中には、愛用のポータブルトイレを持ち込んでいる人もいる。居室の表示にも名前だけでなく、色別の表示などで混乱を防ぐ配慮がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者が車いすを自乗出来るように障害物のない安全な環境作りをしている。また、自力歩行可能な方が安全に歩行できるよう手すりを設置し対応している。</p>		